

1 運営協議会の開催状況 ※ひとつづくりネットワークと共催ではなく単独で開催した学校運営協議会についても記載

回数	月日 (曜)	参加者数	議事内容 (テーマ・話題)	会の持ち方の工夫、成果・課題 等
第1回	5/21 (火)	21名	役員選出, 令和5年度事業報告・決算報告	学校運営協議会と同日開催
第2回	7/11 (木)	23名	令和6年度役員年間計画, 情報交換	熟議を受けての取組の方向性を話し合った。各団体の「あがタウン子育て」の取組への情報交換
	7/26 (金)	10名	熟議を受けての協議	学校運営協議会として開催 熟議を受けての学校課題の解決への協議
	10/23 (水)	10名	「あがタウン子育て」構想の説明と協議	学校運営協議会として開催 「あがタウン子育て」の日の制定とCSアンケートの導入について協議
	2/13 (木)	16名	今後の「県主小コミュニティ・スクール」の方向性	学校運営協議会として開催 県教育委員会 安田先生をファシリテーターとして招いて, CSポートフォリオの結果をもとに熟議
第3回	2/20 (木)	23名	各団体の取組と来年度の方向性について	各団体の活動を子供の企画段階からの参画になっているかなど, 確認したうえで, それぞれの取組の情報交換を行った
	3/5 (水)	12名	学校経営方針について 地域の大人とのつながりづくりや子供の参画について	学校運営協議会として開催

2 懇談会の開催状況

回数	月日 (曜)	参加者数 [主な所属 (内訳)]	議事内容 (テーマ・話題)	会の持ち方の工夫、成果・課題 等
第1回	6/20 (木)	31名 [地域11名, 保護者11名, 教員9名]	拡大学校運営協議会 子供の未来を考えるワークショップ	岡山大学 学術研究院 教育学域 熊谷慎之輔 教授 岡山県教育委員会 地域学校協働活動アドバイザー 安田隆人先生, 両名に来ていただき, 講義とワークショップを行った。

3 めざす子ども像 (地域像、学校像、家庭像等)

○夢をもち, 目標に向かってやり抜く子 ○ひととのつながりを大切にする子 ○県主を愛し, 貢献する子

- ・地域像: 夢を語り, とともに行動する地域の人 挨拶をきっかけに, 気軽に話せる地域の人 県主の良さを伝えることができる地域の人
- ・学校像: 教師自身も夢や目標をもち, 子供に夢や目標をもたせる教職員 挨拶と会話を大切にし, 子供のコミュニケーション能力を高める教職員 地域の良さや魅力を学ばせる教職員
- ・家庭像: 子供の自主性を応援し, 一生懸命にやり抜く姿を見せて一緒に楽しむ親 親が挨拶などで手本となって, 人と人との交流を大切にし, 地域の行事に参加する親 普段から県主の良さを語り, 地域の行事に連れて行ったり協力したりしようとする親

4 めざす子ども像の実現に向けた地域学校協働活動のアイデア

- ◎地域の大人とのつながりづくり (アサガク防犯教室, ロング昼休み)
- ◎地域を愛しを高める教育課程の編成 (地域のフィールドワーク)
- ◎児童の思い実現事業 (あがた未来プロジェクト)

5 地域学校協働活動の実施に係る主な連携及び支援団体

まちづくり協議会, 社会福祉協議会, 自治会, 青少年を育てる会, PTA, 鳥羽踊り保存会, 公民館, 消防団, 楽寿会, アーラブ, ミモザ, きのご荘, 資源保全協議会, 民生委員

◆めざす子ども像（地域像、学校像、家庭像等）

- 夢をもち、目標に向かってやり抜く子 ○ひととのつながりを大切にする子 ○県主を愛し、貢献する子
- ・地域像：夢を語り、ともに行動する地域の人 挨拶をきっかけに、気軽に話せる地域の人 県主の良さを伝えることができる地域の人
 - ・学校像：教師自身も夢や目標をもち、子供に夢や目標をもたせる教職員 挨拶と会話を大切にし、子供のコミュニケーション能力を高める教職員 地域の良さや魅力を学ばせる教職員
 - ・家庭像：子供の自主性を応援し、一生懸命にやり抜く姿を見せて一緒に楽しむ親 親が挨拶などで手本となって、人と人との交流を大切にし、地域の行事に参加する親 普段から県主の良さを語り、地域の行事に連れて行ったり協力したりしようとする親

◆活動の様子



9/2(月) デニムワークショップ
3・4年生 小野はなこさん



6/20(木) 熟議 地域・保護者・職員
熊谷慎之輔先生・安田隆人先生



6-12月第1土曜日 学習補助 児童8名
地域ボランティア4名



6月(3・4年) 11月(5・6年)
放課後学習 地域ボランティア



2/4(火)親育ちプログラム
新入生保護者



通年第2木曜日 全校 読み聞かせ
読み聞かせボランティア



通年2年生 野菜作り, 野菜の販売,
カレーパーティー, ボランティア



9/12(木)教育講演会(青少年・保護者・
地域)講師：藤井美江先生



6/23(日) 田植え 1-6年 保護者 ひとつづくり
9/14(土)青田刈り 6年 保護者 ひとつづくり
12/8(日) しめ飾り集会 1-6年 保護者 ひとつづくり
1/13(月)とんど集会 1-6年 保護者 ひとつづくり

◆活動の様子



1/17.24 ミシン学習 5・6年生
地域ボランティア



2/12(水) 昔遊び交流会 1年生
地域ボランティア



1/21(火) 感謝の会 全校
お世話になった地域ボランティア



5/31(金) プール掃除 5月,11月校内清掃
保護者・地域ボランティア



9月,12月花いっぱい運動
保護者・地域ボランティア



5/22(水) 交通安全教室 全校
見守り隊



1/21(火) ロング昼休み(長縄) 全校
保護者・地域ボランティア



あがた未来プロジェクト
未来会議7月,9月,12月,1月
点灯式12/16(月)
保護者・中学生・地域各団体

◆成果 (○) ・課題 (△) ・来年度に向けて (☆)

- 地域・保護者・学校で「あがタウン子育て」の推進を行うことができた。特に「あがた未来プロジェクト」では、子供が企画段階から参画することで、県主を愛する子供の育成につなげることができた。
- △地域の大人とのつながりの場が少ない。保護者の地域の行事や活動に参加する数が少ない。地域の大人とのつながりが少ない。まだまだ、子供が参画する活動が少ない。
- ☆ひとづくりネットワークを核として、保護者が地域の行事に参加する意識を高める取組を増やしたり、今年度の課題を解決できるように子供の参画できる活動を計画したりすることから次の一手を具現化していきたい。

人口減が急速に進む備後圏。若年層の流出、空き家や耕作放棄地の増加、学校統廃合による学区の活力低下といった問題が山積する今、コミュニティ維持のために官民が果たすべき役割が改めて問われている。このシリーズでは備後の事例を通して、令和の地域づくりのヒントを探る。

井原市南部の田園地帯・門田町と西方町からなる県主地区の名物は「かかし」。地元のまちづくり協議会は毎年かかしコンテストを主催するなど、多様な取り組みを通じて地域を支える。年末年始には、地元小学校との協働でシンボルツリーやフォトスポットを設置した。

「かかし広場」にツリー

田園の真ん中を貫く直線道路を走ると、人と見まがうほどのリアルなかかしの数々が路肩に現れる。井原市の各小

議会の一つ「県の里まちづくり推進協議会」が、2012年の発足直後から地域おこしのために作り始めた。

同時に、地区内に設けた「かかし広場」を会場として一般公募のかかしコンテストも開

に定着し、交流人口増と知名度アップにつながった。賞品を提供してくれる協賛企業も増えた」と同協議会の岡田章文会長(74)。



県主小5・6年生が考案・制作した顔出しパネル

始。昨年で二回目を迎えた。最優秀作の賞品は地産の米六〇。だ。制作講習会も開いており、毎回六〇前後の個人と団体が出品。9-10月の期間中は、力作を見ようと市外からも大勢が訪れる。

「県主といえばかかし」と言えるほど

高さが約四・五メートルのツリーにはSDGsを意識し、使用済みペットボトル約一六〇本を吊り下げて飾りに。一本一本に児童や住民が「活気あふれる県主になりますように」「かかしがもっと広がるように」など地域への願いを書き込んだ。フォトスポットの顔出しパネルには児童が田んぼとかかしを描き、記念になるよう「県主にきた!」の文字も入れた。

令和の「地域づくり」探訪④

井原・県主地区 住民と児童が「かかしの里」PR



県主を訪れる人を迎えるユーモラスなかかし

協働へ「未来会議」

昨年、新たに消滅可能性自治体に判定された同市。「県主が無くなるかも」と危機感を抱いた五・六年の計一二人が昨年4月、帰って来たいと思える地域づくりに取り組む「県主未来プロジェクト」を立ち上げた。6月からは同協議会員など住民と意見を交換する「あがた未来会議」を重ね、ツリーなどのアイデアを説明して協力を求めた。

六年の高橋由緒さん(12)と岡田佳奈さん(11)は「住民から『本当にできるの?』お金はどうするの?と厳しいことも言われたけど、図を作ったりして一生懸命説明した」と振り返る。遠慮のない指摘は「大人との交渉を通じて社会性を養い、どうすれば(企画を)実現

できるか考えさせたい」(岡田会長)からだ。

ツリー作成に活躍した県主公民館(同町)の森下和美館長(69)は「小学校との協働は良いこと。子供だけで簡単にできない部分は住民と役割を調整し、うまくいった。冬休みには帰省者などが、かかし広場で写真を撮る様子が見られた。

「県主みんなのツリーにしたくて、ポトルには地域の人にも願いを書いてもらった。想像以上にきれいで、今後も続けたいと思った」と岡田さん。高橋さんは「小さなフォトスポットだけど、協力して作ったので大きく見えた。県主の魅力伝えて、人の優しさや自然、元気な子供たちが残るようにしたい」と話した。

井原市でも少子化が進み、

全校児童三三二人の県主小を含む四小学校に複式学級がある。同市議会は12月、25年度中に小学校統廃合の検討を本格化するよう市に提言した。

同校の小田真一校長は「児童には二〇代になった頃、まちの本当の課題に取り組みめる若手人材に育ってほしい。今回のプロジェクトで子供を媒介に大人同士のつながりも生まれ、とてもいいモデルになった」と喜ぶ。

特産品開発や作業請負も

地産野菜などの無人販売所も運営する同協議会。14年には芋焼酎「里の夢」を開発した。元々芋を生産していた県主だが、耕作放棄地が増えて対策を迫られていた。そんな折、まちおこしで焼酎を作っ



「かかし広場」に登場したシンボルツリー



かかし作りに励む協議会メンバー

ている鹿児島県志布志市の事例を知り、現地を見学して原料となるサツマイモ「黄金千貫」を仕入れた。

毎年一三〇本ほどの苗を栽培、収穫した一ト前後の芋を酒造業者で醸造してもらう。15年から市内の酒店で取り扱っており、ふるさと納税の返礼品にも採用された。「今後は障害者施設などと連携して、新しい芋の加工品を作りたい」と岡田会長。

「どこに出しても恥ずかしくない事業」と胸を張るのが、高齢単身世帯の増加などを受けて16年から展開する「ふるさと便利屋さん」だ。依頼に応じて会員を派遣し、草刈り

や立ち木の伐採、庭木のせん定、塗装・電気工事など高齢者にはきつい作業を請け負う。

担当者がまず現場を確認。見積もりをした上で作業内容や日程を決める。六〇一七〇代の男性一五人ほどが、得意分野を生かして作業を分担。費用は実費+労務費(二時間一〇〇円程度から)と手軽だ。23年度は五九件の依頼があり、半数超が草刈りだった。

「互いに顔見知りなので丁寧な仕事をし、安心してもらえる。リピーターも多く、収入の一部は協議会に入る。件数はもつと増えそう。公民館が窓口となり、軽作業の依頼は地区社会福祉協議会の有償ボランティアに振り分けるのもポイントだ。

地域ぐるみでの活動が評価されて昨年10月、同協議会は備中県民局の「地域づくり推進賞」を受賞した。一方、県主の人口は05年の一七二三人から15年には一四八六人に。昨年12月末時点では一四三三人で、二〇年間に三割以上も減った。



「黄金千貫」の畑に立つ岡田会長と「里の夢」